

KASAI データバンク H22.10.31 現在 (前月比)	人口 / 48,052 (-29)	世帯数 / 16,992 (+18)
	男 / 23,392 (-16)	女 / 24,660 (-13)
	10月の出生数 / 22人	死亡数 / 44人



▲新工場完成を祝い、三洋電機佐野社長（左）やパナソニック大坪社長（左から3人目）ら関係者約300人が出席して盛大に記念式典が行われました。

「加西グリーンエナジーパーク」オープン

三洋電機加西事業所「加西グリーンエナジーパーク」（鎮岩町）が10月22日にオープンし、同事業所で記念式典が行われました。

新工場は、ハイブリッド車用リチウムイオン電池を月に100万個生産できる能力を持ち、本年度中に稼働予定。また、太陽電池や蓄電池などを導入し、省エネ技術の実験場や、企業などの団体向けショールームを兼ねるなど、最先端の新エネルギー拠点でもあります。

式典では、三洋電機の佐野精一郎社長が「環境保護や地域社会発展のため、創業の地、加西でしっかり取り組みたい」と挨拶されました。



▲満開のコスモス街道をハイキング

満開のコスモスを満喫

今年で3回目となる宇仁郷まちづくり協議会主催の「宇仁の里・花畑街道コスモスまつり」が10月24日、宇仁小学校新グラウンドをメイン会場に開催されました。

太鼓の勇壮な演奏でスタート。約600名の参加者は、最長約8kmのハイキングコースなどに挑み、満開のコスモス街道を楽しみました。



◀加西産の食材をへらへと（沢山を意味する播州弁）使用したオリジナルバーガー

地元食材をふんだんに使用。「加西へらへとバーガー」

加西市観光まちづくり協会とNEXCO西日本が開発した、オリジナルバーガー「加西市へらへとバーガー」がデビューし、10月30日から中国自動車道加西サービスエリア（上下線）で好評販売中です。

同協会が9月に実施した「ご当地バーガー選手権」で優秀賞に選ばれた3作品をもとにサービスエリアの料理長が商品化しました。市内で製造されるエコフード（食品廃棄物再生飼料）で育てた「ひょうご雪姫ポーク」のハンバーグを「加西ゴールデンベリーA」を使ったしょうが焼きソースで味付け。紫黒米のおにぎりも加え、上下を加西産の米粉パンで挟んでいます。



▲舞台向かって左には、曲にちなんだ海外の風景画像を投影し、世界旅行の気分を演出

音楽にのって世界の旅へ。第25回加西市民音楽祭

市内の合唱団や吹奏楽団など12グループが集う加西市民音楽祭が11月3日、市民会館文化ホールで開催されました。

会場を飛行機の機内に見立て、搭乗チケットを模した入場券や機内アナウンス風の進行などの演出が行われました。

演奏・合唱とともに、ステージには曲にちなんだ国の映像がプロジェクターで映し出され、観客は曲を聴きながら飛行機でアジア、ヨーロッパなど世界各国を旅する気分を味わいました。

まちなかで多彩なイベント「北条の宿はくらんかい」

今年で3回目を迎える恒例の「北条の宿はくらんかい」が10月16・17日、大年神社から住吉神社を結ぶ通りを中心に、かつて栄えた北条の宿場町かいわいを会場として多彩なイベントを開催しました。

地域住民が主体となり企画・運営された同イベントは、まちなかにある寺や神社、空き家、空き店舗を利用し市民参加によるカフェやギャラリー、芸能など多彩な催しが繰り広げられ、二日間で市内外から約3万人が来訪。普段静かな町通りが多くの人で賑わい、参加者と地域の方々との語らいがそこかしこに見られました。



▲西岸寺ではさるびあっ子が合唱を披露



▲大信寺で江戸・明治時代の絵図面複製品を展示



▲歴史的な町家が残る通りをそぞろ歩きする参加者。両日とも天候に恵まれ、たくさんの人手で、「かつての賑わいを思い出し、とても懐かしい」との声も聞かれました。

「北条鉄道まつり」でモンキーマジック

10月16日、北条鉄道開業25周年記念式典で、北条町駅の新たなマスコットとしてニホンザル2匹の子ザル駅長の就任を発表、また、100%バイオディーゼル燃料（BDF）利用車両が国内初の営業運転（本誌5頁参照）を成功させるなど全国的に注目されました。

一方、「第3回北条鉄道まつり」が10月16・17日、住吉神社で開催され、ミニSLの運行や鉄道グッズ、特製「北条鉄道サイダー」などを販売、ボランティア駅長らによる縁日コーナーなども開催され、訪れた子供たちの人気を博しました。



▲2匹の子ザル駅長は、公募により名前をメス「ねひめ」（左）、オス「らかん」と命名し、中川市長から特別住民票も交付されました。今後、月1回のペースで出勤予定



▲北条鉄道開業25周年記念サイダー



▲子供たちに大人気のミニSL

上万願寺で収穫体験。地元野菜の滋味を五感で体感

有機無農薬農業を実践する加古川出身の藤本圭一郎さんと藪下直也さんの2人組「草竹」の上万願寺町の畑で10月29日、収穫体験が開催され、姫路市等から農業に関心のある12名が参加しました。

「草竹」の野菜作りへの熱い思いを聞いた後、この時期に旬を迎える小芋などの秋野菜を収穫。大きな葉っぱの根元を掘り起こし、コロコロと小芋が出てくると参加者の表情に笑顔が浮かびました。

気持ちのいい汗をかいた後は、近くの原始人会交流館で、地元食材をふんだんに使った「どいなか定食」が振る舞われました。



▲「草竹」の二人の説明を熱心に聞く参加者